

2015 年度 緊急助成

伊那西部山麓域「西春近地区」におけるニホンジカ緊急対策

伊那市 西春近自治協議会
加納義晴・酒井 久・北林 太

キーワード：南アルプス，摂食被害，早期対策，地域連携，関係団体連携

1. はじめに

中央アルプスの麓，長野県伊那市西部山麓域「西春近地区」においては，これまでニホンジカによる植生等への被害はほとんどなかったが，近年ニホンジカの頻繁な出没が認められるようになり，今後は中央アルプス高標高域へのニホンジカの進出，植生への影響，土壌の流出等が懸念される．ニホンジカは繁殖力が高く，今後中央アルプス域においても著しい増加の恐れが予想される．同じ伊那市域にある南アルプス北部仙丈ヶ岳などは，ニホンジカの食圧により植生等への深刻な影響を受け，豊かなお花畑が姿を消し，ニホンジカが嫌う植物の優占化が

見受けられるなど，従来の豊かな自然環境に影響が出てしまった．(図 1, 2)

この状況を教訓とし，中央アルプスへのニホ



図2 マルバダケブキによる植生の優占化（仙丈ヶ岳馬の背付近）．ニホンジカの嗜好性が高いミヤマキンバイなどを食べつくした結果，嗜好性の低いマルバダケブキが残存している（2009年写真）．



図1 ニホンジカの食害による植生の変化（仙丈ヶ岳馬の背付近）．a: 仙丈ヶ岳馬の背周辺は，かつてはお花畑として多くの登山者に親しまれてきた(1980年代写真)．b: 1990年代末頃からニホンジカの食害で，高山植物は衰退してしまった(2007年写真)．

2016. 4. 28 受付 2018.5.14 公開

ンジカの増加により、影響が及ぶ自然環境、生物多様性を守り土砂の流出を防ぐため、地元住民が主体となり、行政、猟友会等関係団体と連携して取組を進めることを目的とする。

II. 方法

- ・センサーカメラを設置し、ニホンジカ、イノシシの行動状況と生態の観察による効率的な捕獲手段の検証を行った。
- ・食害被害箇所への防護柵の設置を行った。
- ・個体数調整を効率的に行うために地域猟友会の協力による一斉捕獲を実施した。

III. 内容

事業対象地を西春近諏訪形区貝付沢に選定した。この一帯は日本でも有数の花崗岩からなる地帯で、非常にくずれやすい地質であり、2006年の豪雨で土砂災害が発生しており、長野県により山腹工、谷止工群が整備されている。跡地に地域住民が学識経験者から知識、技術の提供を受けながら、2009年から「保育ブロック」を使用したコナラやケヤキの育苗に取り組み、育てた苗木は治山事業地に植樹し、災害に強い山づくりに取り組んでおり、大きいものでは1



図3 地域の手による災害に強い森林づくり。防災、減災にとどまらず、獣害対策や未利用材の活用など、地域の諸問題に対して自らの力による解決に向けて、知識・技術を吸収している（2014年写真）。

mほどの高さに成長している（図3）。ただし、近年野生鳥獣による食害も度々発生し、踏みあらしによる土壌の浸食も確認され若芽を食べられる被害が確認されている（図4）。

今回の事業では植樹した区域を囲む形で防護柵・誘導柵を設置することにより食害を防ぐと同時に、付近にイノシシ檻、くくりわなを柵沿いに設置し、捕獲を試みた。設置前にセンサーカメラによる調査を実施し、イノシシ、ニホンザル等確認をしたが、ニホンジカは糞のみの確認となった（図5）。防護柵・誘導柵の設置には、地元住民が組織する西春近自治協議会と諏訪形区を災害から守る委員会が主体となり、猟友会の助言を得て50人が参加し、4班に分かれ3m間隔で打ち込んだ高さ2mの支柱にネットを取



図4 被害状況。踏みあらしによる土壌の浸食状況。



図5 センサーカメラによる調査。イノシシ、ニホンザルなどが確認された。



図6 防護柵・誘導柵設置状況。植樹した区域を囲む形で柵を設置し、侵入を防ぎ近くに仕掛けるわな。檻へ誘導するように防護柵を設置した。

表1 事業地周辺域の捕獲実績。広範囲にわたって捕獲され、ニホンジカの侵入が極めて深刻な状況。

地域別				
鳥獣名	伊那支部	西箕輪支部	西春近支部	計
シカ(オス)	8	13	2	23
シカ(メス)	9	19	2	30
シカ(子)	0	0	1	1
シカ 計	17	32	5	54
イノシシ	8	0	7	15

使用器具別												
地域	伊那支部			西箕輪支部			西春近支部			計		
	銃	わな	檻	銃	わな	檻	銃	わな	檻	銃	わな	檻
シカ(オス)	6	2	0	9	4	0	0	2	0	15	8	0
シカ(メス)	3	6	0	15	4	0	1	1	0	19	11	0
シカ(子)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0
シカ 計	9	8	0	24	8	0	2	3	0	35	19	0
イノシシ	6	2	0	0	0	0	6	1	0	12	3	0

メッシュ別											
メッシュ	123	124	125	126	127	143	146	147	148	149	計
シカ(オス)	0	1	0	3	0	0	9	0	7	3	23
シカ(メス)	0	0	2	0	0	0	10	0	13	5	30
シカ(子)	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
シカ 計	0	1	3	3	0	0	19	0	20	8	54
イノシシ	0	2	0	5	0	0	8	0	0	0	15

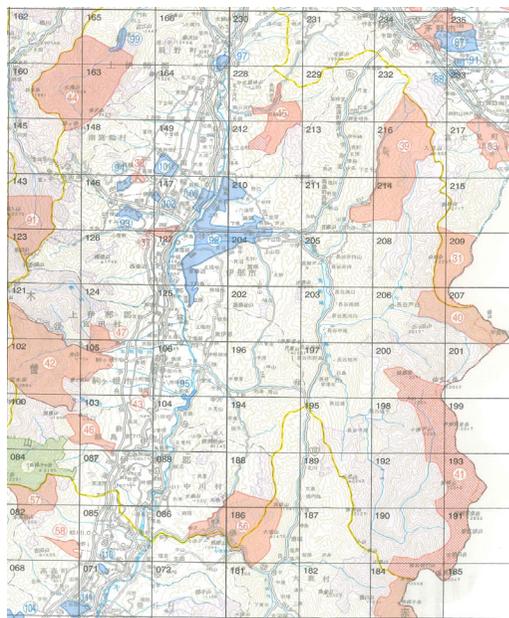


図7 植樹した区域を囲む形で柵を設置し、侵入を防ぎ近くに仕掛けるわな。檻へ誘導するように防護柵を設置した。



図8 捕獲実施後の事業地の確認。防護柵周辺にセンサーカメラを設置。ニホンジカが柵沿いを歩く様子が確認された。

り付け、総延長1,100 mの柵設置を行った(図6)。

柵設置後11月15日～3月15日の狩猟期において猟友会に委託し、事業地周辺を中心にニホンジカ、イノシシの行動範囲を考慮して、西部山麓域へのくくりわなの設置と一斉捕獲を実施した(表1及び図7)。

IV. 結果及び今後の展望

事業対象地の被害地にセンサーカメラを設置

し、確認を行っているが、今のところ野生鳥獣の侵入は確認されていないが、捕獲実施後防護柵周辺においてニホンジカ、ニホンザルが撮影された(図8)。

今後も貝付沢周辺を囲む形で柵設置を行い、檻、くくりわなを進入路周辺の誘導柵沿いに設置し捕獲を行い、災害に強い山づくりを実施していきたい。本取り組みがニホンジカの高山帯への進出を防ぐ一助となるよう地域住民が中心となった活動を行っていきたい。

2015 Urgent Grant Programme

Emergency measures on Sika deer in Nishiharuchika district, the piemont area of Western Ina

KANO Yoshiharu, SAKAI Hisashi and KITABAYASHI Futoshi

Keywords: Southern Alps, Feeding damage, Immediate action, Cooperation with local community and affiliate organization